

オープンゼミの議事録

日時	2021年2月25日(木) 15:30~17:00
出席者	敷田先生、敷田研究室石川・東京の学生(敬称略)
役割	発表者: 涌田 ファシリテーター: 呉 グラフィックカー: 赤穂

作野広和(2019)「人口減少社会における関係人口の意義と可能性」、『経済地理学年報』, 第65巻, pp.10-28.

【論点1】

pp.20「交流人口を計測しようとした場合、適切なデータが収集できない」とあるが、同様に関係人口においてもデータの収集が難しいと考えられる。関係人口のデータの収集にはどんな方法が考えられるだろうか？

■オンライン班(発表: 種村)

まず質的・量的にわけて考える。

<量的>

例えば SNS の良いねの数、ふるさと納税の金額、ふるさとテレワークなどの国の施策拠点の利用者や登録者数、メディアに取り上げられる数(インフルエンサーの数の多さに基づく)、外来者による法人起業数

<質的>

教育機関との提携、外部人材が入りやすい、オープンなコミュニティ構成、排他的でない地元住民の気質、地域の知名度(ブランド力)

■オンサイト班1(発表: 邱)

交流人口と関係人口が似ているのでまずはきっちりと分類した。p18の4分類を使用したうえで、これらの人々からどのようにデータを取得できるか、という視点で議論した。例えば、アンケートや旅館の宿泊者を調べたり、大学などの地域調査者が用いるグループフォームなどが有用であろう。

■オンサイト班2(発表: 田中)

交流人口とはなんぞや。例えば近江市場なら市役所が収集しているデータもあるが不正確。そこで近江町振興会などの団体に許可をとりカメラなどで調査するのが正確だろう。ちなみに中国では個人IDが電車移動の際に必要なので、関係人口のデータ収集に役立つだろう。なお、p18の第一表の故郷住民票制度なども具体的なデータになるだろう。

■オンサイト班3(発表: 松野)

別荘をもっていたり、という量的な側面ももちろん関係人口のデータに有用であろう

が、本文の内容を考慮すると質的側面のほうが重要と感じた。

[論点1の感想]

質的な関係人口も大切と理解できた<涌田>

[論点2]

pp.17記載の第三図「以外」の関係人口を事例と一緒にあげてほしい

■オンライン班（発表：影山）

お金をだすけど、手は出さない（企業版ふるさと納税、と地域事業への個人投資家）、長期出張や期間工など定住してはいないけど、一定期間住んでいる人、ネガティブな関係の人口（裁判ごと、役所への納付、届出）など本人の望まぬ移動で通う人、月に一回会いに行く親権保持者などもこれ。

■オンサイト班1（発表：呉）

第三図が理解しがたい。まず誰の視点からみた価値創出なのかそもそも不明。また軸がおかしい。生活維持の対極に価値創出があるのが変。縦軸もおかしいのでは（p18表1を参考にすれば）上は農村地域の人視点、下部は都市部の人視点とすべき。

■オンサイト班2（発表：顧）

学生は関係人口か否か、という議論になった。また震災復旧のためにお金を出した人はCに該当するのだろうか？ さらに郊外に入院しなければいけない人などはどこに分類されるのか、などが議論された。

■オンサイト班3（発表：麻生）

そもそも大学連携を例にとれば複数にまたがってしまい第三図のように分類できないのでは？ 四象限の意味はわかるが、軸自体を見直したい。横軸は相手向け・自分向けへカスタム。縦軸は意識的・無意識的にカスタム。するとAが地域貢献、Cがスローライフ Bが非居住地維持 Dが地域志向となり、意味が通じるような気がする。

[論点2の感想]

わかりやすい言葉にみえてわかりにくいので議論できてよかった。関係人口「拡大」という言葉があるならデータをとりたいので、論点1とした。論点2は分類を見直したいがゆえにそうした<涌田>

[その他関連メモ]

背景と目的の書き方はこの順番でいいのか？ <麻生>

⇒ただ論文の流れに従っただけで他意はない<涌田>

[敷田先生からのコメント]

私自身も交流人口と関係人口の区別が明確ではない。定住人口は定義はかんたん（地方自治の観点から住民の定義があるので）。交流人口も旅行者なので然り。交流人口の目的は「体験」、機能は「消費」とするならば、関係人口の目的はピュアな交流、機能は「地域への何らかの貢献≒定住人口ができなくなった活動への貢献」といったところか。

なお、図3の軸はよろしくないが、こうした四象限に分類するパーセプションマップやポジショニングマップは有用なので学ぶ価値あり。同様に本論文の先行研究の紹介のやり方はまともなので、良い事例として参考にされたい。

[参考文献]

特になし

[グラフィッカーの所見]

皆の議論を聞いていて感じた分類は以下のような感じ。主観的に「地域に貢献」しているアクションとアピールするか否か（世間へのアピール度合？）で分類しても面白い。

	量的（経済的）つながり		質的（精神的）つながり	
	実際の有無	世間へのアピール	実際の有無	世間へのアピール
交流人口	あり	あり	なし	なし
関係人口（※）	あり	あり	あり	あり
定住人口	あり	なし※1	あり	なし※2

※上述のネガティブな関係人口は除く

※1 俺はあのスーパーで買い物してきたぞ～とはいちいち言わない

※2 俺はあのじいさんと仲が良いんだ、とはいちいち言わない

言ってる人はたぶん、関係人口。

以上

